

長崎県庁舎

～安全で県民に開かれた丘のような低層シティーホールの実現～

建築主：長崎県

設計者：株式会社日建設計

長瀬悟、林博之、染谷朝幸

施工者：鹿島建設株式会社

大須賀太一



建物外観（撮影：SS九州）

建築概要

建設地：長崎県長崎市尾上町 3-1

建築主：長崎県

設計：日建設計・松林・池田特定建設関連業務委託
共同企業体

施工：鹿島・上滝・堀内特定建設工事共同企業体

建築面積：12,532m² 延床面積 53,416m²

階数：地上 8 階、地下なし

高さ：SGL+39.60m

構造種別：RC造

（一部プレストレストコンクリート造、木造）

選評

「県民とともに新しい時代を切り拓く庁舎づくり」を基本理念として、県の防災拠点施設にふさわしい災害に対する安全性確保と機能維持に加え、低く構えて風景と緑が立体的につながった、県民が親しみを感じる庁舎を目指して計画された。当初、高層とする長崎県の基本構想案に対して、徹底して低層化することで、周辺環境との調和が目指された。低層化したことで、水平方向に広い、県民に開かれた心地よい空間が実現された。特に剛強な構造体を現わしにした玄関ホールは、行政各部門を見渡すことが可能で、勾配の緩やかな大きな階段に自然と訪問者が促されている。

上部構造は RC 造の均等スパン純ラーメン架構を基本とし、一部の長スパン梁にはプレストレスを導入している。免震層から立ち上がる行政棟と議会棟との棟間には粘性ダンパーを配置して、両棟の重量差による地震時の応答の不均等を低減する配慮もされている。

通路側にたくさん配置された打ち合わせスペースは、夕方から夜間にかけて地域の子供たちに勉強スペースとして開放されて、いつもにぎわっている。免震としたことで可能となったこうした広々として開放感のある親しみやすい空間は、新しい県庁の在り方として高く評価された。

（三田 彰）

免震化した経緯及び企画設計等

「丘のような庁舎」、「県民に開かれたシティーホール」をコンセプトに、県の防災拠点施設に相応しい耐震性確保に加え、大きなワンプレート平面から成る使いやすい行政棟、大空間エントランス、別棟の議会棟を並列して整備する必要があった。これに対し「免震構造+低層 RC 造」を採用し、均等スパンから成る純ラーメンの基本骨格に、一部でのプレストレス導入梁等を組み合わせて計画し、より免震効果を高めた安全でフレキシビリティを有する開放的な新しい県庁舎を合理的に実現した。

技術の創意工夫、新規性及び強調すべき内容等

低層 RC 造の採用によって上部構造の剛性を効率よく確保し、等価固有周期 4 秒台の高性能免震構造とすることで防災拠点施設の耐震安全性を高め、災害時の機能継続が容易な建物としている。

均等スパンの RC 造ラーメン架構を基本として壁の配置箇所は限定し、大空間エリアにはプレストレス構造の長スパン梁を設け、使い易さとフレキシビリティの確保に加えて、高い床振動居住性や海浜部における構造体の耐久性にも配慮した。

その中で、仕上げによる過剰な装飾性を省いて敢えて剛強な構造体を現わしにし、安心感を与えつつ素材感をデザインとして積極的に活用している。

なお、免震層から立ち上がる行政棟と議会棟の棟間の要所に粘性ダンパーを配置し、地震時応答の不均等を低減した。更に、かつて埋立地であった敷地には地盤改良による液状化対策を施し、地震動の長周期成分の卓越を防ぐとともにインフラや護岸の過大な損傷も回避し、安心安全が確保され長くご活用頂ける県民に開かれた新県庁舎を実現できた。



シティーホール内観（撮影：SS九州）